

国語科学習指導案

I 単元 なかまの段落を見つけて読もう (『言葉で遊ぼう』『こまを楽しむ』『めだか』)

II 考察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

文章の内容や表現についての考えを、積極的に友達と伝え合いながら、広げたり深めたりしようとする態度

①知識・技能

意味段落や段落相互の関係についての知識及び、それを説明的な文章を読む際に用いる技能

②思考力・判断力・表現力等

段落相互の関係に着目しながら、説明的な文章に書かれた事例を的確に捉える力

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

〔知識及び技能〕(1)

カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。

〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと(1)

ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。

(3) 単元の価値

本単元では、事物を紹介する説明的な文章である『言葉で遊ぼう』『こまを楽しむ』(光村3年)『めだか』(教出3年)を読み、文章をよりよく読むための秘密を見付け、紹介するという学習を行う。その価値は以下のとおりである。

事物を紹介する説明的な文章では、段落を明確に分けながら事例が書かれていることが多い。『言葉で遊ぼう』では言葉遊びが3つ、『こまを楽しむ』ではこまが6つ、それぞれの事例が段落ごとに1種類ずつ説明されている。それらの事例は、内容面で子どもたちの身近なものからそうでないものへと配列されているものの、表現面ではその順序が示されていない。2つの文章には、内容面、表現面ともに共通性があるため、『言葉で遊ぼう』で学んだ知識・技能を、『こまを楽しむ』で活用できる教材配列になっていると言える。一方、『めだか』では、「中」の前半には身の守り方が4つ、後半には自然の厳しさから身を守る体の仕組みが2つ、段落を分けて書かれている。こちらは、「中」の前半と後半で異なる種類の事例を取り上げているだけでなく、それらの事例の順序が、「第一に」「一方」といった文頭の言葉により明示されている。つまり、『言葉で遊ぼう』『こまを楽しむ』と『めだか』は、いずれも三段構成でありながら、「中」の事例の内容や、段落相互の関係が異なる説明的な文章であると言える。

子どもたちは、内容を的確に捉えようと文章を読むが、その際に文章の表現面の特徴を十分に

意識して読むことには弱さがある。『言葉で遊ぼう』と『こまを楽しむ』をよりよく読むための秘密を見付け、紹介するという学習は、子どもたちの意識を文章の表現面に向ける上で有効である。また、「中」の段落に事例が事柄の順序で配列されていることを繰り返し学ぶことにつながる。その上で『めだか』を扱うことは、多様な段落相互の関係に気付くことにつながる。

以上のことから、これら3つの教材を段階的に扱うことは、意味段落や、段落相互の多様な関係についての知識を得たり、それを説明的な文章を読む際に用いる技能を身に付けたりすることにつながる。同時に、その知識・技能を用いて説明的な文章に書かれた事例を捉える力を養うことにもつながる。

『言葉で遊ぼう』『こまを楽しむ』『めだか』は、子どもたちが興味をもちやすい身近な遊びや生き物について紹介する文章であり、子どもたちは読み取った事例について、自分の興味・関心や経験等に関わらせながら友達と伝え合いたくなる。また、上記のように、段落相互の関係が異なる文章であり、内容を捉える際には表現面の特徴の違いにも気を付ける必要がある。そのため、これらの文章を扱うことは、子どもたちが文章の内容や表現についての考えを、積極的に友達と伝え合いながら、広げたり深めたりしようとする態度を養うことにつながる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、3年「工夫や秘密を伝えよう」(『すがたをかえる大豆』『食べ物の秘密を教えま』)における、段落の役割に気を付けて説明的な文章を読み、調べた事実を基に文章を書く学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、2年「おもちゃの説明書を作ろう」(『しかけカードの作り方』)において、おもちゃ作りの順序を考えながら文章の内容を読む学習に取り組んできた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 「まず」「それから」といった文頭の言葉や文章の内容に着目して、時間的な順序を示す言葉について理解できるようになってきている。このような子どもたちが、「第一に」「一方」といった、意味段落や段落相互の関係を明確に示す言葉について理解できるよう、根拠となる言葉を挙げて段落のまとめや順序をペアで話し合う際に用いる段落カードを用意する。
- ② 時間的な順序の関係に着目して、段落ごとの内容を捉えられるようになってきている。このような子どもたちが、多様な段落相互の関係に応じて、事例を的確に捉えられるよう、説明されている事例の内容を段落ごとに記述する、カード形式の学習プリントを用意する。
- ③ 身近なおもちゃを題材にした説明的な文章に興味をもち、進んで文章を読もうとする態度を養ってきている。このような子どもたちが、身近な遊びや生き物を題材にした文章の内容や表現について、積極的に友達と伝え合いながら、広げたり深めたりしようとする態度を養えるよう、課題の解決状況を単位時間の終末に振り返る機会を、単元を通して設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 『言葉で遊ぼう』と『しかけカードの作り方』の段落の順序の違いを話し合うことを通して、説明的な文章における「中」の段落の順序の秘密を見付けるという、本単元の学習の見通しをもつことができる。

- 2 準備 『言葉で遊ぼう』『こまを楽しむ』『めだか』に関わる写真や具体物 問題解決的な学習の単元の流れを示した図 『しかけカードの作り方』の段落カード 振り返りシート
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉やこまの遊びを知っているよ。めだかにも興味があるから、どんなことが書いてあるか、早く読んでみたいな。 ・今日は単元の初めの授業だから、単元の学習課題を立てるのだよね。 <p>2 説明的な文章の段落の順序を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『しかけカードの作り方』の「中」は、作り方が作る順番に並んでいたはずだよ。 ・段落の初めに「まず」「つぎに」という言葉があるから、これをヒントにすれば段落の正しい順番が分かるよ。 ・隣のペアのカードを見てみたら、僕たちと同じように考えているから、やっぱりこの順番でよさそうだよ。 ・『言葉で遊ぼう』の「中」は、3つの段落があって、どの段落にも1つずつの遊びが説明されているね。 ・『言葉で遊ぼう』の「中」の段落は、『しかけカードの作り方』と違って「まず」のような言葉がないから、違う順番にしてもいいのかな。だからといって適当な順番でもいいわけではない気がするよ。この順番には、何か秘密があるのかな。 ・「中」の段落には、順番がはっきり分かるものとそうでないものがあったな。その理由がよく分からないから、学習課題は、「段落の順番の秘密を見付けよう」にするといいかもしれないな。 <p>3 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『こまを楽しむ』は「中」の段落の順番がどうなっているのか調べてみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○説明的な文章の学習に対する興味を高められるよう、『言葉で遊ぼう』『こまを楽しむ』『めだか』に関わる写真や具体物を提示する。 ○見通しをもって本時の学習に取り組めるよう、問題解決的な学習の単元の流れを示した図を提示する。 ○事柄の順序に沿った段落相互の関係を想起できるよう、順序がバラバラになった『しかけカードの作り方』の段落カードを、ペアで正しく並び替えるよう促す。 ○文章中の言葉に着目して段落の順序に気付けるよう、順序の手がかりとなる言葉を赤で囲むよう促す。 ○段落の順序についての考えを他のペアと伝え合えるよう、ペア同士を向かい合わせた座席配置にする。 ○『言葉で遊ぼう』では段落ごとに1つの言葉遊びが説明されていることに気付けるよう、「中」の各段落の内容の共通点を問いかける。 ○『言葉で遊ぼう』の「中」の段落の順序についての疑問をもてるよう、『しかけカードの作り方』の段落の順序との違いを問いかける。 ○本単元の学習の目的意識をもてるよう、本時の疑問を基にした学習課題を問いかける。 <div data-bbox="826 1615 1401 1809" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p style="text-align: center;">「中」の段落の順序について追究することの必要感を発言したり記述したりしている。 <発言・振り返りシート③></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○課題解決への意欲を明確にできるよう、振り返りシートに、「これから頑張りたいこと」の視点で感想を記述するよう促す。

指導と評価の計画（全10時間）

目標	段落相互の関係を基に、事例を的確に捉えながら説明的な文章を読むことができる。		
評価 規準	(①知識・技能)「第一に」「一方」等の文頭の言葉が、段落の順序を明確にすることを理解し、それを説明的な文章の内容理解に用いている。 (②思考力・判断力・表現力等)三段構成や文頭の言葉、文章内容を手掛かりに段落の順序を明らかにし、文章中の事例を的確に捉えている。 (③主体的に学習に取り組む態度)段落の順序を捉えようという意識をもって、説明的な文章を進んで読もうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つか かむ	1	○『言葉で遊ぼう』『しかけカードを作ろう』の段落の順序の違いを話し合い、「段落の順番の秘密を見つけよう」という学習課題をつかむ。(本時)	○段落の順序についての疑問をもてるよう、『言葉で遊ぼう』と『しかけカードを作ろう』の「中」の段落を対比して提示する。
ふ か め る	1	○『こまを楽しむ』の段落の順序を話し合う。	○叙述を基に「中」の段落の順序に気付けるよう、ペアで話し合う際に用いる、『こまを楽しむ』を段落ごとに分けた段落カードを用意する。
	2	○『こまを楽しむ』の「中」を読み、こまの楽しみ方や特徴を調べる。	○「中」の各段落の事例を捉えられるよう、6種類のこまの楽しみ方や特徴を記述する、カード形式の学習プリントを用意する。
	1	○『こまを楽しむ』について、「中」の段落の順序の秘密を友達と話し合う。	○「中」の段落は、事柄の順序で事例が配列されていることに気付けるよう、前時の学習プリントをペアで段落構成図にまとめる機会を設定する。
	1	○『めだか』の段落の順序を話し合う。	○叙述を基に「中」の段落の順序に気付けるよう、ペアで話し合う際に用いる、『めだか』を段落ごとに分けた段落カードを用意する。
	2	○『めだか』を読み、身の守り方や自然の厳しさに耐える体の仕組みを調べる。	○段落の順序に着目して「中」の事例を捉えられるよう、身の守り方や自然の厳しさに耐える体の仕組みを記述するカード形式の学習プリントを用意する。
	1	○『めだか』について、「中」の段落の順序の秘密を友達と話し合う。	○「中」の段落は、2種類の内容の事例が順序性をもって配列されていることに気付けるよう、前時の学習プリントをペアで段落構成図にまとめる機会を設定する。
ふ り か え る	1	○段落の順序の秘密をまとめ、学習を振り返る。	○文章構成に着目することで、筆者の伝えたいことを捉えやすくなることに気付けるよう、『こまを楽しむ』『めだか』における文章構成と文章内容とのつながりの相違点や共通点を視点として提示する。
			◇「中」の段落の順序について追究することの必要感を発言したり記述したりしている。 <発言・振り返りシート③>
			◇「中」は段落の順序が明確に示されていないことを発言したり記述したりしている。 <発言・振り返りシート①>
			◇6種類のこまの特徴を記述している。 <学習プリント②>
			◇「中」には、身近なこまからそうでないものへと事例が順番に書かれていることを発言したり記述したりしている。 <発言・振り返りシート②>
			◇「中」は段落の順序が明確に示されていることを発言したり記述したりしている。 <発言・振り返りシート①>
			◇身の守り方や自然の厳しさに耐える体の仕組みを記述している。 <学習プリント②>
			◇『めだか』の「中」には、身の守り方と自然の厳しさに耐える体の仕組みが順番に書かれていることを発言したり記述したりしている。 <発言・振り返りシート②>
			◇文章構成と文章内容との関わりについて学習したことを発言したり記述したりしている。 <発言・振り返りシート③>